

京都大学

エネルギー科学広報

Graduate School of Energy Science
Kyoto University

第12号 (平成20年)

目次

〔巻頭言〕		
エネルギー科学研究科の紹介	(研究科長 八尾 健)	1
〔解説・紹介〕		
エネルギー科学研究科・エネルギー理工学研究所合同産学連携 シンポジウム	(教授 八尾 健)	3
平成19年度公開講座報告	(教授 萩原 理加)	6
インターシップ説明会	(教授 前川 孝)	8
学際的エネルギー科学研究者養成プログラム	(教授 松本 英治)	9
〔諸報〕		
招へい外国人学者等		10
共同研究		11
受託研究		13
科学研究費補助金		14
特別講演		15
入学状況		16
修了状況等		17
博士学位授与一覧		18
修士論文一覧		20
国際会議・国内会議開催状況		24
荣誉・表彰		26
人事異動		28
教員配置一覧表		29
日誌		30
〈ハラスメント問題相談窓口〉		32

◆巻頭言◆

エネルギー科学研究科の紹介

エネルギー科学研究科長 八尾 健



エネルギーの確保並びに環境の保全は、人類の持続的な発展のための最も重要な課題です。エネルギー科学研究科は、このエネルギー・環境問題を解決するため、工学、理学、農学、経済学、法学などの多岐にわたる学問領域を結集して、平成8年に世界に先駆けて創設されました。エネルギー科学研究科は、新しいエネルギー科学の学問の創製と深化、エネルギー・環境に対する専門的学識を持つ優秀な人材の養成、社会・産業界との連携・協力による社会貢献・科学技術の進展に邁進してきました。

エネルギー科学研究科は、エネルギー社会・環境科学、エネルギー基礎科学、エネルギー変換科学、エネルギー応用科学の4つの専攻から成り、エネルギー理工学研究所、原子炉実験所、人間環境学研究科の協力のもとに、基幹22分野、協力17分野で構成されています。エネルギー持続型社会形成を目指して、理工系に人文社会系の視点を取り込みつつ学際領域としてエネルギー科学の学理の確立をはかり、地球社会の調和ある共存に寄与する、国際的視野と高度の専門能力をもつ人材を育成することをその理念とし、1,400人を超える修士課程並びに博士課程修了生を世に送り出して来ました。

平成14年度より推進してまいりました21世紀COE「環境調和型エネルギーの研究教育拠点形成」プログラムは、大きな成果を上げて、平成18年度で終了しました。これに替わり、本年度において、エネルギー科学研究科、エネルギー理工学研究所、工学研究科原子核工学専攻及び原子炉実

験所の4部局の合同提案となる、グローバルCOE「地球温暖化時代のエネルギー科学 — CO2ゼロエミッションをめざして」が採択となりました。エネルギー問題は、単に技術だけの問題ということではできず、そこには社会や経済の要素も大きく関係してきます。理工学に社会科学と人文科学の視点を加えた学際・複合領域としての「低酸素エネルギー科学」の確立が必要となってきます。本プログラムでは、2100年までに、化石燃料に依存しないCO2ゼロエミッションエネルギーシステムに到達するシナリオの実現に向けた技術の創出・政策提言を行いうる教育者・研究者・政策立案者を育成する国際的教育研究拠点形成を目的としています。CO2を排出しないエネルギー科学研究として、まず元栓を締めなければならないとの観点から1次エネルギーに注目し、再生可能エネルギー（太陽光・バイオマスエネルギー）、並びに核分裂や核融合による先進原子力エネルギーを対象としました。さらに、エネルギー問題は単に技術だけの問題ということではできず、社会や経済の要素も大きく関係してきます。エネルギー社会・経済の研究も重要です。グローバルCOEの中心課題である教育においては、エネルギー科学GCOE教育ユニットを設置して博士後期課程学生を選抜し、人材育成を行います。学生自らがシナリオ策定への参加を通して、他分野研究者との相互交流を体験し、「エネルギーシステム」全体を俯瞰する能力を獲得し、更に各専門研究に反映するものであり、これは人材育成の大きな特徴です。人類の生存にかかわる様々なエネルギー・環境問題に対して、幅広い国際性と深い専門性をもって社会の要請に応えるとともに、自然環境と人間社会との調和を図りながら、創造性と活力にあふれる21世紀社会をリードする若手研究者の育成を行います。

エネルギー科学研究科はまた本年度において、地球環境学堂並びに工学研究科との共同提案となる、科学技術振興調整費戦略的環境リーダー育成拠点形成事業に採択され、環境マネジメント人材育成国際拠点形成を推進しています。地球のおよび地域的環境問題の解決のため、文理両領域にわたる環境に関する学術と高度な解決技法を習得するとともに、海外フィールドキャンパスを活用した長期インターン研修、学位研究等を行うことでアジア地域が直面する環境問題解決、脱温暖化、循環型社会構築に貢献できる環境リーダーの育成に努めています。

入学を希望される方に

エネルギー科学研究科は、例年、修士課程109名、博士後期課程49名を募集していますが、その入学試験のポリシーと、入学後の学生諸君へのカリキュラムの特徴、そして課程修了後の進路について紹介します。

1. 入学試験について

入学試験は、

- (1) 優秀な資質をもった人材を、国内、国外を問わず広く門戸を開いて迎え入れる
- (2) 研究レベルの向上に繋がる優秀な人材を学生として迎え入れる
- (3) 社会人としてすでに多種多様な知識、経験を有する人材を学生として迎え、教育・研究に深さと幅を持たせる

等の基本的な考え方に従い実施しています。

また、出題にあたっては、受験生が今まで受けてきた教育基盤の学問領域が多岐にわたっていることを配慮しています。すなわち、受験生に同一の試験問題を課してその成績により一律に合否を判定するのではなく、基礎的な学力を評価しつつ、さらに複数の問題の中から出身学部・学科に応じて受験生が得意とする問題をいくつか選択して回答できるような工夫を行っています。

2. カリキュラムについて

広い視点・国際的視点と多角的な知見をもとにエネルギー・環境問題を解決することができる人材を育成することは、エネルギー科学研究科の重

要な使命の一つです。そのためには、大学院の課程で自然科学と社会科学の双方にわたる幅広い学識を学び、それらを総合的に活用する能力を養うことが必要です。そこでエネルギー科学研究科の修士課程では、自然科学から社会科学にわたる多彩な授業科目や、他専攻セミナー、学外研究プロジェクトなどを特徴とする従来にはない新しいカリキュラムを取り入れています。また、博士課程では、総合能力を高めるため先端研究の展望や英語による講義での単位取得を取り入れています。

修了後の進路について

修士課程を修了した学生は「京都大学修士（エネルギー科学）」の学位を授与されて社会に巣立っていきます。博士後期課程を修了し、学位論文の審査に合格すると、「京都大学博士（エネルギー科学）」の学位が授与されます。修士課程修了者は、国家公務員、地方公務員、公社、電力、ガス、電気、機械、自動車、重工、鉄鋼、非鉄、化学、情報、セラミックス、繊維、等々、実社会の多岐に渡る分野で活躍しています。博士後期課程学生では、大学、研究機関、試験機関、企業の技術開発部門、シンクタンクなどに進路を進めています。平成15年度には、エネルギー科学研究科の修了生、元教職員、現教職員の同窓会「京エネ会」が発足し、世代間の人的交流を図っています。

エネルギー科学研究科は、創設理念に基づいて教育・研究活動を展開し、国内外から注目される数々の優れた成果を上げ、大きく発展してきました。グローバルCOEプログラムの推進、戦略的環境リーダー育成拠点形成事業の実施等、更なる充実を目指して力強く進み続けています。エネルギー・環境問題の解決は、人類の持続的な発展のための最も重要な課題です。この重要課題に果敢に挑戦し、未来を拓こうとする人々が、この活力あふれるエネルギー科学研究科に集まり、教職員とともに手をたずさえて叡智を結集して優れた研究成果を上げ、その成果を世界に還元し、大いなる人類の未来構築の道とともに進むことを心より期待しております。

◆解説・紹介◆

エネルギー科学研究科・エネルギー理工学研究所
合同産学連携シンポジウム

八尾 健

(エネルギー基礎科学専攻 教授)

産業界との連携・協力による学術研究の進展並びに社会貢献が、ますます重要になってきている。エネルギー科学研究科、エネルギー理工学研究所並びに生存圏研究所は、平成14年度より18年度まで21世紀COE「環境調和型エネルギーの研究教育拠点形成」プログラムを推進し、その間、COE活動の一環として、これまでに蓄積された知識と技術を産業界の生産活動のシーズとして提供し、更には、産業界と共同で社会のニーズを吸収・昇華して新しい技術を進展させることを目的として、産学連携シンポジウムを開催してきた。平成19年度においては、京都大学全学共通経費「環境調和型エネルギー交流拠点の拡充に関する経費」の支援を受けてこの事業を継続し、平成20年3月18日(火)に、京都テルサ(京都府民総合交流プラザ)で、通算第6回目となる、京都大学大学院エネルギー科学研究科・エネルギー理工学研究所合同産学連携シンポジウムを開催した。折しも、21世紀COEに替わるグローバルCOEにエネルギー科学研究科、エネルギー理工学研究所、工学研究科原子核工学専攻及び原子炉実験所の4部局が合同して提案を申請中であったこともあり、エネルギー科学研究科及びエネルギー理工学研究所に加え、新しい枠組みとして、工学研究科原子核工学専攻及び原子炉実験所を加え、教員の方々にシーズを募集した。22件の多彩な、興味深いテーマをご提供いただいた。シンポジウムの案内状は、近畿、中部、中国、四国を中心に、企業、官庁、ベンチャーキャピタル、合わせて約2,000箇所へ送付した。またホームページを開設し、広く参加を募った。当日はまず、(財)応用科学研究所理事長、前大阪工業大学学長、京都大学名誉教授の西川禎一先生に「COEからNOEへ」と題する講演を、また勝山憲夫新日本製鐵株式会社執

行役員名古屋製鐵所長に「環境調和社会に貢献する鉄鋼素材開発の現状」と題するご講演を頂いた。その後シーズプレゼンテーションに移り、1件ごとに4分間の口頭によるプレゼンテーションの後、ポスタープレゼンテーションを行った。活発な情報交換が行われた。参加者は、経営トップから研究者まで多彩な顔ぶれで、職種も多岐にわたっていた。参加者数は64名と、昨年度のシンポジウムに比べ減少した。これは昨年度に比べ、案内状の送付先が大幅に減少したこと、また開催時期が年度末になったこと等が影響したものと考えられる。産学連携シンポジウムに対する企業の関心が低くなったとは考えられない。

シンポジウムで提供したシーズを以下に紹介する。

○高強度・高耐食性先進鉄鋼材料の開発(従来のフェライト鋼に比べ、強度および耐食性が格段に優れている酸化分散強化鋼。管材や板材の製造、溶接法など。)○多孔質シリコンを鋳型に用いた電析反応による微細構造形成(多孔質シリコンへの金属あるいは導電性高分子の電析反応を行い、鋳型のシリコンを化学溶解で除去することにより微細構造を得る。)○拡張現実感技術(HMDやPDAを通して現実の周囲環境を見ることで、あたかも仮想の物体や情報が存在するかのように重畳表示させて見せる技術。医療分野での手術支援、機器保守作業支援、エンターテインメント、景観シミュレーション等への応用が可能。)○断熱的CMOS論理回路を用いた機能メモリに関する研究(消費電力を極限まで減少できる可能性を持つ断熱的CMOS論理回路の新しい考案。その回路についてSPICEシミュレーションを行った結果の報告、並びにエレクトロニクスシステムへの応用の可能性。)○高分子へのヨウ素包接を用いたハイ

ブリッドコンポジット作製法（親水性高分子とポリヨウ素イオンとの包接構造を応用することで高分子をマトリクスとした無機-有機ハイブリッドコンポジットを調製。電気・磁気・光学・衛生など幅広い応用へ展開。）○微視的内部構造を考慮した材料の弾性/非弾性力学応答解析（多結晶材料の個々の結晶粒レベルでの不均質性や箔材料の異方性及び金属フォーム等の微視的な不均質性を考慮に入れた、構造材料の安全性を確保するための力学的特性評価。）○マイクロバブル・フローテーションの微粒廃棄物処理および産業廃水処理への展開（資源リサイクリングにおける、微粒廃棄物や希薄に存在するナノサイズ浮遊懸濁物質の省資源・省エネルギー型処理技術。）○フェムト秒レーザーによる硬質薄膜表面のナノ構造生成と制御（ダイヤモンド状炭素や窒化チタンなどの硬質薄膜表面にフェムト秒レーザーを照射して生成できるナノメートル域の微細周期構造の特性とその制御。）○京都大学赤外自由電子レーザー（目標性能が可変波長領域：4～13 μm 、パルス幅：1 ps、尖頭出力：50MWの自由電子レーザー。各種材料の機能向上、クリーンエネルギー源生成などを計画中。）○導電性高分子フィルムの作製と有機太陽電池への応用（次世代の太陽電池として期待されている色素増感太陽電池や有機薄膜太陽電池の素材となる有機系光電変換材料の開発。）○金属酸化物ナノ構造体の作製と光触媒等エネルギー関連材料への応用（ナノ微粒子、ナノロッド、ナノチューブ、ナノワイヤー、あるいはナノ多孔体などの特徴的な構造をもつナノサイズの金属酸化物を作製し、分散、担持、二次元固定化や表面化学修飾などの操作を経て、電極としての光電エネルギー変換や、触媒としての水素生産、アルデヒドの酸化分解、あるいは炭素リサイクルなどの物質変換に応用した研究。）○純窒素ガスを用いた低コスト・環境調和型プラズマ粉体処理技術の開発（従来よりも低コスト・低環境負荷かつ高速な新しい環境調和型プラズマ粉体表面窒化処理技術。）○酵素機能変換によるバイオエタノール高効率生産（キシリトール脱水素酵素およびキシロースレダクターゼの補酵素要求性をプロテイン工学的的手法により変換し、さらに、それらの機能変

換酵素を酵母に遺伝子導入することによりキシロースからエタノールへの変換効率を改善。）○マイクロ波による球状トラスプラズマ形成と維持（中心ソレノイドの無い、先進トカマク型核融合炉立ち上げのための基幹技術として注目されている球状トラスプラズマの形成。）○高速充放電リチウムイオン二次電池のための酸化物/炭素複合電極材料の開発（電気自動車の電池システムのための、リチウムイオン二次電池の高速充放電化。酸化マンガン/炭素複合体電極の超高速充放電特性並びに酸化鉄/炭素複合体電極における良好なサイクル特性及び高速充放電特性。）○欠陥ペロブスカイト型電解質を用いた一室式燃料電池の開発（一室式燃料電池は、特に移動体への搭載に都合のよい特長を有する。非常に高い酸化物イオン導電性を有する $\text{BaLaIn}_2\text{O}_{5.5}$ を一室式燃料電池の電解質材料として適応。安定に発電することに成功。）○銀微小球被覆アパタイトマイクロカプセルの開発（平均粒径1.71 μm の銀微小球をアパタイトマイクロカプセルで完全に被覆した。この銀微小球は生理食塩水中で銀イオンを徐放する特性を示した。各種ドラッグデリバリーシステムへの応用が期待される。）○生体活性チタン-ナノアパタイト核複合材料の開発（チタン板に硫酸処理によって微細な細孔を形成させ、その細孔内にリン酸カルシウム微粒子を析出した。このチタン-アパタイト核複合材料は高い生体活性を示した。骨代替材料として大いに期待される。）○エネルギー理工学研究所が進める産官学連携プロジェクト-ADMIRE計画の概要- ○ADMIRE計画において共用可能な装置の紹介-イオン加速器と電子顕微鏡をはじめとする材料特性評価装置群- ○ADMIRE計画への参加方法-大学の保有する装置の無償利用のために-（ADMIRE計画における、エネルギー理工学研究所エネルギー産業利用推進室のDuET/MUSTER施設の利用の概要。）

企業は大学に同じ価値観・視点を望んでいるのではなく、むしろ企業と異なる、或いは企業にはない価値観・視点を期待している。また企業と大学の協力の仕方には既定の方式というものはなく、常にお互いに長所を活かしあう関係を作り上げていく努力が必要である。平成20年度において、

グローバルCOE「地球温暖化時代のエネルギー科学 — CO2ゼロエミッションをめざして」が採択となった。この産学連携シンポジウムをグロー

バルCOEに継続し、新しい挑戦を繰り返しながら、更に発展させていきたい。

◆解説・紹介◆

平成19年度公開講座報告

広報委員会公開講座担当 萩原 理加
(エネルギー基礎科学専攻 教授)

第12回の公開講座は、「科学技術と我々の社会」というテーマで、3件の講演を企画した。

まず、エネルギー変換科学専攻の木村晃彦教授より、「強い、腐らない、革新的な構造材料の開発を目指して — スーパーODS鋼 —」と題する講演をいただいた。現在のエネルギー事情は危機的な状況にあり、今後の原子力発電の需要がますます高まるという背景から、発電プラントのさらなる高効率利用と安全性向上が求められており、そのためには炉材料などにより高い耐久性が求められるという研究背景の説明の後、材料の劣化のメカニズムについて、聴講者にわかりやすい解説があった。さらに演者が開発したスーパーODS鋼の製法や、機械的強度や耐食性など、従来の鋼に比べて著しく向上している点について、データをもとに説明があった。

次にエネルギー応用科学専攻の宮崎健創教授より、「レーザーでアクセスできる極限時間域と物

質の超高速挙動」と題する講演をいただいた。光とレーザーについての基礎的な説明から、フェムト (10^{-15}) 秒からそれ以下の短い時間だけ発光する超短パルスレーザーの発振と増幅の方法について解説された。また、超高速で分子の振動や回転、配向などを観測したり制御できるなど、超短パルスレーザーのもつ特徴や機能について説明があり、さらに超短パルスレーザー照射による原子・分子・固体表面の観察や、材料表面の微細加工などについて演者自身の研究の実例を挙げ、その制御・利用によって拓かれつつある科学技術について概説された。

最後にエネルギー社会・環境専攻の杉万俊夫教授より「コミュニティを変える、とはどういうことか」と題する講演をいただいた。演者が研究対象とし、また実際に参加している、鳥取県智頭町で20年以上にわたって行われている「日本ゼロ分のイチ村おこし運動」の事例を紹介し、過疎の村



の保守性、閉鎖性を打破し、住民による自治や経営を確立していく上で、有力者や行政などとの間に起こるさまざまな問題や、その解決への努力、国内外への波及の様子や今後の展望などを具体的に詳述し、因習を廃してコミュニティを活性化していくリーダーたちの姿を情熱をもって語られた。

今回の公開講座には42名の参加者があり、講演後設けられた討論の場では聴講者から多くの質問があり、予定の時間を超過して講演者たちと活発な質疑応答が続けられ、盛会のうちに終了した。

平成19年度
エネルギー科学研究科
公開講座
科学技術と我々の社会

【1】 強い、柔らかい、革新的な構造材料の開発を目指して—スーパー100の鍵—
教 授 木村 真孝

「有力な超分子有機電解質の高性能化と利用は構造材料の高性能化に大きく貢献している。本講演では、我が国のエネルギー事情、有機電解質の高性能化の現状および材料の劣化現象を解説する。また、エネルギー工学研究科において実施されている高度教育および最先端な革新的構造材料「スーパー100」の開発研究を紹介する。」

【2】 レーザーでアクセスできる極微細空間と物質の超高速運動
教 授 宮崎 健樹

「フェムト秒」のレーザーから生じた超短パルスレーザーが飛来する超微細空間に、レーザーがさまざまな角度で照射されるように、このレーザーで初めてアクセスできる超微細空間（超高電圧電場の物質上）に二つの電子-分子-固体界面がある。及びその制御・利用によって様々な超高速現象を観察する。」

【3】 「コミュニティを築く」とはどのようなことか
教 授 林巧 俊夫

「コミュニティの「構築」に重点し、情報とは何か、情報が変わるとはどのようなことなのか、10数年におよぶ経験と実践の過程を基盤として事例を挙げて説明する。」

日時：11月12日（土） 15:00～17:00
11F 300号室（原研館） 京都大学（京大総合センター）
会場：京都大学工学部5号館1F（講義室）

★ 定 員：150名（先着順に受け付け、定員に足りぬ限り、締め切ります。）
★ 受講料：無料
★ 聴講希望の方は、ご連絡ください。

【お問い合わせ先】
〒606-8501 京都府京都市左京区
京都大学エネルギー科学研究科 事務局
〒606-8501 京都府京都市左京区
〒606-8501 京都府京都市左京区

京都大学大学院エネルギー科学研究科

◆解説・紹介◆

インターンシップ説明会

教育研究委員会 前川 孝
(エネルギー基礎科学専攻 教授)

平成19年度インターンシップ説明会を下記のプログラムで3月7日(金)午後1時から4時半まで開催した。参加者は40名であった。開催時期が3月でもあり、4月から修士課程に進学予定の学部生が主であった。

株式会社ディスコの山砥氏にはインターンシップだけに限定せず就職活動も含めてより広い観点から、よき職業人を目指す上での基本的な心構えや考え方、加えて就職応募者に対する採用側の見方などについてお話いただいた。また例年は2~3社の企業にインターンシップ説明をお願いしているが、今回は東芝一社に限定し、その代わり時間を十分とって、3名の講師によりそれぞれの立場から詳細な説明をいただくことができた。

インターンシップ説明会は平成13年度から始まり今回で7回目であるが、初めてインターンシップ体験談を在学生から話してもらうことにした。

守秘義務により体験をすべて詳らかにできない制限もあるなかで、インターンシップを行った動機や、その会社を選んだ理由、インターンシップで印象に残ったこと、それが今どのように活かされているかなど、生き生きと後輩に語っていただいた。最後の懇談会に残ったのは10名程度であったが、時間一杯まで熱心に講師の方と語りあった。

例年は12月開催であったが、今回は3月に行った。これは、前回の担当教員が12月は適当ではないという意見であったが、それを知ったときはすでに10月に入っていたため、あまり選択の余地が無かったことによる。3月だと修士進学予定者は学部の卒業研究を完了し、心は春からの大学院に向かっているのも積極的に参加してくれるのでは

ないかと考えた。掲示板およびホームページでの掲示に加えて、修士1回生には各専攻の就職担当の教員からメールによる案内、また修士進学予定者には個別に案内を郵送した。しかしながら、遠方の学生は参加しにくいので、この時期も最適とは言いがたい。インターンシップの時期がほとんどの場合8月、9月であるので、次回からは6月~7月に開催したいと考えている。

<プログラム>

はじめに(趣旨説明)

エネルギー科学研究科教育研究委員会

前川 孝

1. より良いインターンシップ、就職活動のために

(株) ディスコ 山砥 敏宏氏

2. (株) 東芝からエネルギー科学研究科在学生(今春進学者を含む)の皆様へ

(1) 会社概要説明:

人材採用センター 近藤 俊憲氏

(2) 研究インターンシップの概要とその効果:

技術企画室 山下勝比拡氏

(3) 電力システム社の紹介:

原子力化学システム設計部 相坂 貴司氏

3. 在学生によるインターンシップの体験談

(株) 三菱総合研究所でのインターンシップ

エネルギー社会・環境科学専攻 村上 佳菜さん

(株) 大阪ガスエネルギー技術研究所でのインターンシップ

エネルギー変換科学専攻 阿部 淳さん

4. 懇談会

◆解説・紹介◆

学際的エネルギー科学研究者養成プログラム

運営委員 松本英治
(エネルギー変換科学専攻 教授)

「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業は2年間で終了しましたが、平成19年度もこのプログラムを継続することになりました。平成18年度と同様に、登録学生を募集し研究計画を提出させ、12月には学内で中間発表会を開催しました。また、産学連携セミナーや先進エネルギー技術セミナーを引き続き開講しました。

当初のプログラムでは、博士進学を目指す学生を将来の進路に応じて、3コースに配属することになっていました。しかしながら、修士課程に進学した直後の学生が博士進学を目指すかどうか、その将来の進路がいずれであるかを決定することは、現実的には困難であることも事実です。そこで、平成19年度からは、プログラムへの登録の条件として必ずしも博士進学を目指すのではなく、その進路の一つとして可能性がある学生を対象として、コース配属も柔軟に考えることにしました。それにもかかわらず平成18年度に比べて登録学生が減少していることは、その原因を明らかにして今後の改善方法を検討しなければならないと考えます。また、平成19年度はこのプログラムのための経費を十分に準備することができず、非常勤講師および博士後期課程学生のRAの雇用のみを経費を当てました。また、必須科目のコア科目の履修要件が厳しく、後期後半のテーマまで順調にテーマを履修してくる者が少なくなってしまうこと

も問題点です。この教育プログラムは修士課程で修了して、就職する学生に対しても教育効果が期待できるので、今後はより多くの学生にこれらの科目が受講できるように考える必要があると思います。

博士後期課程の学生数を増加させるためには、本プログラムのような教育内容の改善に加えて、博士後期課程の教育・研究環境の充実や経済的支援、修了学生の進路を開拓することも重要な要件です。博士後期課程および修了後の進路が魅力的でなければ、進学を目指す意欲ある学生が増加しないというわけです。このためには、研究科としての取り組みだけでなく、各教員が学問的、社会的にもより高い評価を得ることも必要です。一方、企業や官公庁などがより多くの博士課程修了学生を必要とすることも重要ですので、本研究科の修了生にもご協力をお願いできればありがたいと思っています。

最後に、当研究科の新しい取組みに協力していただいた企業の方々、教員や職員、その他の多くの皆さんに、運営委員会の一員として御礼申し上げますとともに、今後とも引き続きご理解、ご支援、ご援助を賜れば幸いです。

(平成20年3月記)

招へい外国人学者等

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 招へい外国人学者等 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

氏名・所属・職	活 動 内 容	受入身分・期間	受 入 教 員
CHUNG, Whan-sam 韓国 韓国原子力研究所 主任研究員	社会・技術変化を考慮した韓国における発電システムの環境影響評価	外国人共同研究者 07.04.16～07.05.30	エネルギー社会・環境科学専攻 教授 東野 達
WANG, Zheng-Xiong 中国 大連理工大学 博士後期課程学生	MHDモードを含む異なった揺らぎ間の相互作用に関する理論・シミュレーション研究	外国人共同研究者 (学術振興会外国人特別研究員) 07.10.12～09.10.11	エネルギー基礎科学専攻 教授 岸本泰明
TRAN, HuyDuc ベトナム ハノイ大学材料工学部 講師	アルミニウム鉄化合物複合材料のその場合成	外国人受託研修員 (JICA) 07.10.28～08.10.22	エネルギー社会・環境科学専攻 教授 石原慶一
YANG, Yindong 中国 北京鋼鉄研究総院 教授	劣質炭もしくはバイオマス由来炭素による反応高速化に関する調査・研究	招へい外国人学者 07.11.18～07.12.28	エネルギー応用科学専攻 教授 岩瀬正則
INSERRA, Claude フランス メーン大学 博士後期課程学生	ガイド波の非線形超音波効果を用いた不完全界面の評価	外国人共同研究者 (学術振興会外国人特別研究員) 08.3.1～09.1.31	エネルギー変換科学専攻 教授 琵琶志朗
BIN, Zhao 中国 中国科学技術大学非線形プラズマ物理研究所研究員	原子・緩和過程を伴うプラズマの相乗的複雑性と物質科学・宇宙物理への応用	招へい外国人学者 08.2.3～08.3.31	エネルギー基礎科学専攻 教授 岸本泰明

共同研究

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 共同研究 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

(平成19年度)

所 属	研究担当者	共 同 研 究 事 項	申 請 者
エネルギー社会・ 環境科学専攻	教 授 石原 慶一	全固体pHセンサの研究	株式会社村田製作所 代表取締役社長 村田 恒夫
エネルギー社会・ 環境科学専攻	教 授 石原 慶一	自動車用燃料タンクのライフサイクル評価	新日本製鐵株式会社 八幡技術研究部 部長 竹下 哲郎
エネルギー社会・ 環境科学専攻	准教授 奥村 英之	バインダーを用いた環境触媒の能力評価に関する開発研究	株式会社ジャパンナノコート 代表取締役 島田 誠之
エネルギー社会・ 環境科学専攻	助 教 宮藤 久士	イオン液体を用いたバイオマスの化学変換に関する研究開発	トヨタ自動車株式会社 第3材料技術部 部長 宮本 康司
エネルギー社会・ 環境科学専攻	准教授 下田 宏	ふげん発電所における現場可視化システムの開発	日本原子力研究開発機構 産学連携推進部 部長 田島 保英
エネルギー社会・ 環境科学専攻	准教授 下田 宏	ワークプレイスプロダクティビティ評価に関する研究	松下電工株式会社 設備ネットワークシステム開発部 部長 寺田 元治
エ ネ ル ギ ー 基 礎 科 学 専 攻	教 授 萩原 理加	熱交換機能を有するイオン液体の創製	株式会社デンソー 常務役員 鎌居 健一郎
エ ネ ル ギ ー 基 礎 科 学 専 攻	教 授 萩原 理加	新規常温溶融塩を用いた燃料電池用電解質の研究開発	日産自動車株式会社 燃料電池研究所 所長 田村 英之
エ ネ ル ギ ー 基 礎 科 学 専 攻	教 授 萩原 理加	低品質蛍石からのフッ化水素製造技術開発	株式会社東京大学TLO 代表取締役社長 山本 貴史
エ ネ ル ギ ー 基 礎 科 学 専 攻	准教授 野平 俊之	溶融塩めっき浴による高融点金属電析技術の研究	住友電気工業株式会社 エレクトロニクス・材料研究所 所長 山川 晃
エ ネ ル ギ ー 基 礎 科 学 専 攻	教 授 八尾 健	溶液からの酸化物合成の電子部品への応用	パナソニック エレクトロ ニックデバイス株式会社 開発技術センター 材料プロセス研究所 所長 御堂 勇治
エ ネ ル ギ ー 基 礎 科 学 専 攻	教 授 八尾 健	遮熱ガラスコートに関する開発研究	株式会社スケッチ 代表取締役 島田 靖弘
エ ネ ル ギ ー 基 礎 科 学 専 攻	教 授 八尾 健	無機バインダーの新規機能開発に関する研究	株式会社ジャパンナノコート 代表取締役 島田 誠之
エ ネ ル ギ ー 基 礎 科 学 専 攻	准教授 日比野光弘	高容量電極材料に関する調査研究	関西電力株式会社 研究開発室電力技術研究所 所長 林 栄治

共同研究

所 属	研究担当者	共同研究事項	申請者
エネルギー変換科学専攻	教授 塩路 昌宏	直接噴射式ディーゼルエンジンの燃焼制御に関する研究	トヨタ自動車株式会社 第2パワートレイン開発部 部長 古野 志健男
エネルギー変換科学専攻	教授 塩路 昌宏	水素エンジンの実用性調査及び研究	株式会社エイシーイー 常務取締役 研究部長 青柳 友三
エネルギー変換科学専攻	教授 塩路 昌宏	水素添加による内熱機関の熱効率向上に関する共同研究	日産自動車株式会社 総合研究所パワーソース研究所 所長 上田 隆正
エネルギー応用科学専攻	教授 平藤 哲司	燃料電池用新規触媒の構造解析及び製造技術の開発	シャープ株式会社 先端エネルギー技術研究所 所長 清水 正文
エネルギー応用科学専攻	教授 岩瀬 正則	脱りん能を有する転炉カバースラッグの探査研究	住友金属工業株式会社 総合技術研究所 所長 外山 和男
エネルギー応用科学専攻	教授 岩瀬 正則	モリブデン酸溶融塩に関する溶質元素の熱力学データ解析及びプロセス評価に関する研究	日本原子力研究開発機構 産学連携推進部 部長 田島 保英
エネルギー応用科学専攻	教授 馬淵 守	結晶粒形態制御によるCuめっき被膜の高性能化に関する研究	住友金属鉱山株式会社 技術本部 青梅研究所 所長 池田 和夫
エネルギー応用科学専攻	教授 宅田 裕彦	FEM解析の計算精度向上に関する基礎的研究	新日本製鐵株式会社 鋼管事業部鋼管営業部 部長 長尾 武尚
エネルギー応用科学専攻	教授 福中 康博	エネルギー変換貯蔵デバイスにおける反応界面解析研究	トヨタ自動車株式会社 第3材料技術部 部長 宮本 康司

受託研究

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 受託研究 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

(平成19年度)

所 属	研究担当者	研究課題	委託者
エネルギー社会・ 環境科学専攻	教授 坂 志朗	「新エネルギー技術開発研究／バイオマスエネルギー高効率転換技術開発(先導技術開発)／加圧熱水・酢酸発酵・水素化分解法によるリグノセルロースからのエコエタノール生産」	独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 理事長 牧野 力
エネルギー社会・ 環境科学専攻	教授 坂 志朗	「新エネルギー技術開発研究／バイオマスエネルギー高効率転換技術開発(先導技術開発)／グリセリンを副生しない新規な高品位バイオディーゼル燃料製造技術の研究開発」	独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 理事長 牧野 力
エネルギー 基礎科学専攻	助教 後藤 琢也	平成19年度原子力システム研究開発事業 不溶性陽極を用いた革新的酸化物乾式再処理プロセス技術の開発	支出負担行為担当官 文部科学省研究開発局開発企画課 課長 中原 徹
エネルギー 基礎科学専攻	教授 萩原 理加	固体高分子形燃料電池実用化戦略的技術開発／次世代技術開発／イオン液体を用いた中温作動無加湿燃料電池の研究開発	独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 理事長 牧野 力
エネルギー 基礎科学専攻	准教授 琵琶 志朗	SCC模擬き裂面の閉開口に伴うヒステリシスを考慮した高次高調波の解析	有限会社超音波材料診断研究所 所長 川嶋 紘一郎
エネルギー 基礎科学専攻	教授 松本 英治	溶接部の高精度ハイブリッド非破壊検査技術の評価法開発	株式会社原子力安全システム研究所 管理部長 木本 茂
エネルギー 応用科学専攻	助教 日下 英史	微粒子制御技術開発とナノ粒子制御技術の開発、及び微粒子の形態評価	バルテック株式会社 代表取締役社長 窪谷 篤芳
エネルギー 応用科学専攻	教授 馬淵 守	固体リサイクル材の諸特性に及ぼす混入物の影響評価	独立行政法人産業技術総合研究所 理事長 吉川 弘之
エネルギー 応用科学専攻	教授 岩瀬 正則	精錬溶銑脱硫に関する基礎研究	新日本製鐵株式会社大分製鐵所 生産技術部長 上鍛冶 弘
エネルギー 応用科学専攻	教授 岩瀬 正則	劣質炭もしくはバイオマス由来炭素による反応高速化	財団法人金属系材料研究開発センター 理事長 奥村 直樹

科学研究費補助金

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 科学研究費補助金 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

(平成20年度)

研究種目	職名	研究代表者	研究課題
特定領域研究	教授	萩原理加	電気化学デバイス用イオン液体の機能発現に関する研究
基盤研究(A)	教授	前川孝	超伝導トカマク起動のためのECHによる無誘導磁気面形成法の研究
	教授	萩原理加	イオン液体を用いた次世代エネルギー変換・貯蔵デバイスの開発
基盤研究(B)	准教授	前田章	気候変動抑制経済政策手段の最適統合に関する研究
	教授	岸本泰明	原子・分子・放射過程を伴うプラズマの相乗的複雑性と応用に関する研究
	准教授	今谷勝次	エシエルビーの概念に基づく正準化連続体力学の体系構築と不均質材料のモデル化
	教授	東野達	化学輸送モデルとシステム分析の融合による二次粒子排出・生成・影響の包括的評価
	准教授	田中仁	電磁波エネルギー駆動磁気再結合現象の観測と解明
	准教授	下田宏	高照度サーカディアン照明によるオフィス作業生産性向上の実験評価
	教授	平藤哲司	クロメート処理フリーの高耐食性合金めっきの開発-価数揺動による自己修復性の付与-
	教授	八尾健	階層的イオン伝導チャンネル設計とハイパワー電池材料への適用
	准教授	前田佳均	マグネトフォニック結晶の作製と光制御機能の検証
	准教授	琵琶志朗	ガイド波による不完全界面・不完全結合部の定量的非線形超音波スペクトロスコーピー
	教授	白井康之	超伝導機器冷媒としての液体水素冷却特性に関する研究
	教授	石原慶一	酸化チタン光触媒の磁場効果とその機構解明
	准教授	日比野光宏	ガンマ酸化鉄(III)/炭素複合体の電気化学的特性及び高速充放電電極への適用
	准教授	河本晴雄	木質バイオマスの官能基主導型熱分解機構の解明
	基盤研究(C)	教授	宅田裕彦
准教授		李継全	アルフェン波による帯状流モードの発生機構と非線形ダイナミックス
教授		星出敏彦	高機能薄膜被覆材料の耐久性に対する微視構造ベース評価手法の開発
萌芽研究	准教授	野平俊之	中低温イオン液体を用いた新規アモルファスシリコン薄膜形成法
	教授	平藤哲司	双方向非対称パルス電解法によるAl-Ti合金の作製
	准教授	日比野光宏	高速電気化学反応が可能な酸化物/炭素複合体のソノケミカル法による作製
	助教	宮藤久士	イオン液体を用いた木質バイオマスの液化
基盤研究(B)	助教	浜孝之	マグネシウム合金の温間成形におけるスプリングバック特性の解明とその有限要素解析
	助教	蜂谷寛	時効による安定化ジルコニアの導電率低下メカニズムの光学的評価法に関する研究
特別研究員奨励費	DC1	藪塚武史	電気泳動堆積による生体活性有機高分子複合材料の開発
	DC2	仲田利樹	加圧熱水処理によるリグノセルロースからのバイオエタノール生産
	DC2	安部正高	高感度磁気センサーを用いた漏洩磁束探傷法による欠陥形状の定量的評価
	PD	小林輝明	固体酸化物形燃料電池素材の開発
	PD (工学研究科へ)	細谷隆史	木材多糖の熱分解による無水糖生成に関する量子化学研究
	外国人特別 研究員	WANG, Zheng-Xiong	MHDモードを含む異なった揺らぎ間の相互作用に関する理論・シミュレーション研究

特別講演

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 特別講演 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

(平成19年度)

番号	開催日	主催専攻	講師	講演題目
1	平成19年 4月20日	エネルギー 応用科学専攻	瀬戸内共同火力株式会社 常勤監査役 脇元 一政	製鉄コンビナートにおけるエネルギー事情
2	5月11日	エネルギー 応用科学専攻	衆議院議員 (民主党) 小沢 一郎	技術立国論Ⅲ
3	5月22日	エネルギー社会・ 環境科学専攻	アースポリシー研究所 所長 Lester R. Brown	Plan B2.0: Rescuing a Planet Stress and a Civilization in Trouble
4	6月8日	エネルギー社会・ 環境科学専攻	東北大学多元物質科学研究所 客員教授 Kallarackel Thomas Jacob	物質創製に伴うエネルギー科学
5	6月11日	エネルギー 応用科学専攻	一本木 康二	資源エネルギー論
6	6月25日	エネルギー社会・ 環境科学専攻	マラヤ大学 教授 Muhamad Bin Zakarea	Biofuels in Malaysia
7	9月3日	エネルギー 基礎科学専攻	Institute of Condensed Matter Chemistry of Bordeaux Alain Tressaud	FLUORINE, A PARADOXICAL ELEMENT OF OUR ENVIRONMENT
8	10月16日	エネルギー社会・ 環境科学専攻	National Institute of Advanced Studies Bangalore, India Snageetha Menon	意識とインド哲学
9	10月19日	エネルギー 応用科学専攻	衆議院議員 (民主党) 小沢 一郎	技術立国論Ⅲ
10	10月19日	エネルギー 応用科学専攻	アリゾナ大学 教授 John S. Lewis	宇宙科学及び宇宙開発における化学の応用
11	10月22日	エネルギー 応用科学専攻	CNRS-Ecole Polytechnique Research Director Michel Rosso	金属リチウム電極に関して
12	10月26日	エネルギー 変換科学専攻	Department of Mechanical and Material Engineering, Faculty of Engineering 教授 Yusoff Bin Ali	The design of new cylinder head for CWGDI engine and solving some problems on CNG direct injection
13	12月3日	エネルギー 応用科学専攻	瀬戸内共同火力株式会社 常勤監査役 脇元 一政	脱りん能を有する転炉カバースラグの探査研究について
14	1月21日	エネルギー社会・ 環境科学専攻	マラ工科大学 准教授 Khudzir Ismail	The Production of Bio-coal from rice husk for coal blending and advanced materials utilization
15	1月7日	エネルギー 基礎科学専攻	山口東京理科大学基礎工学部 教授 内海 隆行	CIP法の最近の進展と応用
16	2月8日	エネルギー 応用科学専攻	衆議院議員 (民主党) 小沢 一郎	技術立国論Ⅲ
17	2月26日	エネルギー 基礎科学専攻	メリーランド大学 龍野 智哉	プラズマ理論セミナー
18	3月6日	エネルギー 応用科学専攻	IBM T. J. Watson Reserch Center Lili Deligianni	Electrochemistry with Application in Nano-electronics and Green Energy

入学状況

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 入学状況 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

(平成19年度10月期)

区 分 専攻名	博士後期課程	
	入学定員	入学者数
エネルギー社会・環境科学専攻	12	5 (4)
エネルギー基礎科学専攻	17	4 (1)
エネルギー変換科学専攻	8	5 (4)
エネルギー応用科学専攻	12	2 (2)
合 計	49	16 (11)

() 内は外国人留学生で内数

(平成20年度4月期)

区 分 専攻名	修士課程		博士後期課程	
	入学定員	入学者数	入学定員	入学者数
エネルギー社会・環境科学専攻	29	24 (1)	12	6 (1)
エネルギー基礎科学専攻	37	34 (2)	17	5 (1)
エネルギー変換科学専攻	17	24	8	1
エネルギー応用科学専攻	26	25 (1)	12	0
合 計	109	107 (4)	49	12 (2)

() 内は外国人留学生で内数

修了状況等

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 修了状況等 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

平成19年度修士課程修了者数

専攻名	修了者数
エネルギー社会・環境科学専攻	23
エネルギー基礎科学専攻	42
エネルギー変換科学専攻	25
エネルギー応用科学専攻	22
合計	112

博士学位授与者数（平成20年3月24日現在）

種別	授与者数
課程博士	176
論文博士	53



京都大学大学院エネルギー科学研究科 第11期修了記念 平成20年3月24日

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 博士学位授与 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

【 】内は論文調査委員名

◎平成19年9月25日付京都大学博士（エネルギー科学）の学位を授与された者

[博士課程修了によるもの]

長山 浩章

発展途上国における電力セクター改革に関する研究

【手塚 哲央・石原 慶一・下田 宏】

板倉 周一郎

核物質及び原子力施設の物理的防護の体系化に関する研究

【石原 慶一・釜江 克宏・宇根崎 博信】

小野田 金児

Energy and Environmental Use of High Performance Titanium Materials

(高性能金属チタン材料のエネルギー・環境分野への応用)

【吉川 暹・八尾 健・萩原 理加】

Mohamed Shaker Mohamed Salem

Electrochemical Formation of Porous Silicon Multilayers and Analysis of Their Optical Properties for Sensing Chemical Vapor (多孔質シリコン多層構造の作製と化学物質の光学検知特性の解析)

【尾形 幸生・萩原 理加・作花 哲夫】

Sommani Piyanart

Study on the Modulation of Reactive Oxygen Species Generation in Cellular Systems and Its Effects on Some Biologically Significant Events

(細胞内活性酸素生成制御およびその生物学的に重要なシステムへの影響に関する研究)

【牧野 圭祐・吉川 暹・小瀧 努】

下 志強

A Study on Augmented Reality Technology for Supporting Field Work of Nuclear Power Plants

(原子力発電プラントの現場作業支援のための拡張現実感技術に関する研究)

【手塚 哲央・釜江 克宏・下田 宏】

◎平成19年11月26日付京都大学博士（エネルギー科学）の学位を授与された者

[博士課程修了によるもの]

朴 二玄

高性能・多機能性ポーラスSiCセラミックスの開発に関する研究

【香山 晃・馬淵 守・檜木 達也】

◎平成20年1月23日付京都大学博士（エネルギー科学）の学位を授与された者

[論文提出によるもの]

山口 誠二

Development of Bio-environment Adjusted Materials by Electrophoretic Deposition

(電気泳動堆積を用いた生体環境適合材料の開発)

【八尾 健・吉川 暹・森井 孝】

 博士学位授与

◎平成20年3月24日付京都大学博士（エネルギー科学）の学位を授与された者
 [博士課程修了によるもの]

蔡 聖 華

Robust Framework Design for Electric Power Industry Deregulation
 (電力産業自由化のためのロバスト制度設計)
 【手塚 哲央・石原 慶一・下田 宏】

小林 輝明

Development of Materials for Solid Oxide Fuel Cells (固体酸化物形燃料電池材料の開発)
 【八尾 健・萩原 理加・日比野 光宏】

正木 知宏

高強度レーザーと物質との相互作用に関するシミュレーション研究
 【岸本 泰明・近藤 克己・宮崎 健創】

本島 巖

ヘリオトロンJプラズマにおける非誘導電流に関する研究
 【佐野 史道・長崎 百伸・水内 亨】

鷓沢 憲

Study of Modulational Instability and Structure of Zonal Flows in Fusion Plasmas
 (核融合プラズマにおける帯状流の変調不安定性と構造に関する研究)
 【岸本 泰明・近藤 克己・福山 淳】

三木 一弘

Transport Dynamics Associated with Geodesic Acoustic Mode near the Critical Gradient Regime in Tokamak Plasmas (臨界勾配近傍におけるトカマクプラズマのGAMに関わる輸送ダイナミクス)
 【岸本 泰明・近藤 克己・福山 淳】

今原 裕章

OIL AND FAT RESOURCES AND THEIR PROPERTIES OF BIODIESEL AS PREPARED BY SUPERCRITICAL METHANOL PROCESS
 (油脂資源と超臨界メタノール法によるバイオディーゼルの燃料特性)
 【坂 志朗・塩路 昌宏・河本 晴雄】

川村 洋介

Control of Nano-structures Composed of Silicon and Metal by Electrochemical Processes
 (電気化学プロセスを用いたシリコン-金属ナノ構造の制御)
 【尾形 幸生・萩原 理加・作花 哲夫】

下田 一哉

SiC超微粒子を用いた耐環境性SiC/SiC複合材料の作製技術に関する研究
 【香山 晃・小西 哲之・檜木 達也】

[論文提出によるもの]

打田 正樹

電子サイクロトロン電流駆動による球状トカマクの無誘導形成法の研究
 【前川 孝・近藤 克己・岸本 泰明】

修 士 論 文

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 修 士 論 文 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

平成19年 9 月修了者

氏 名	論 文 題 目
土 井 昭 宏	NOによってDNA鎖中に生成した損傷塩基とDNA認識酵素との相互作用解明に関する研究
加 登 裕 也	Electrochemical behavior of oxide ion in molten chlorides (溶融塩化物中における酸化物イオンの電気化学的挙動)
窪 田 啓 吾	Physicochemical properties of alkali bis (perfluoroalkylsulfonyl) amides (アルカリ金属ビス (パーフルオロアルキルスルフォニル) アミド塩の物理化学的性質)

平成20年 3 月修了者

氏 名	論 文 題 目
諫 山 洋 平	トリアセチンを副生する超臨界法によるバイオディーゼルの創製
石 坂 閣 啓	大気中における鉛エアロゾルと黄砂粒子の化学的変質に関する研究
伊 藤 亮 太	SiC薄膜のNO _x 吸着・分解能に関する研究
金 丸 智	大気化学輸送モデルを用いた植物起源VOCが二次物質生成に及ぼす影響評価
北 村 佑 介	エネルギーシステム評価における情報の共有について
近 藤 佑 樹	オフィス環境評価のための新知的パフォーマンステストの開発と評価
白 石 晴 久	国際拡張型産業連関表を用いたわが国の家計消費が諸外国に誘発する環境負荷の分析
常 樂 寺 宏 行	グリセリンを用いた木質系資源の液化による熱硬化性バイオ樹脂の創製
高 岡 利 安	国内家庭部門における電力消費削減対策とその費用対効果
徳 山 相 賢	ポर्टフォリオ理論に基づく日本のエネルギー資源輸入に関する評価
中 川 祐 一	日本の自動車用エネルギー供給の設備計画に関する一考察
沼 田 健	小型電子機器からの資源リサイクル評価
原 康 祐	Ti-O系のメカニカルミリング
増 山 泉	都市緑地が家庭内エネルギー消費行動に及ぼす影響の分析
松 岡 聖 二	セルロースと低分子グリコシドの混合物における熱分解挙動
松 田 亘 司	リスクコミュニケーションにおける相互理解促進のためのディベート支援システムの応用に関する研究
森 崎 裕 幸	セルロース系バイオマスの熱分解におけるレボグルコサンの二次分解挙動とホウ酸を用いた高効率回収の試み
吉 田 悟	応用一般均衡モデルによる環境税導入の影響評価
楊 首 峰	拡張現実感用画像マーカの3次元位置自動計測システムの開発と評価
林 涛	中国の電力システムにおける原子力の役割に関する研究
岩 淵 巧	食に投入されるエネルギー量の分析
宮 崎 大 輔	環境負荷削減型ライフスタイル設計手法に関する研究
石 川 怜	溶融塩電気化学プロセスによるMg ₂ Si薄膜の形成と制御
大 森 丈 史	Organic Photovoltaic Cells Using Self-Organized Columnar Metallomesogen (液晶性金属錯体を用いた有機太陽電池の創製)
片 山 大 輔	ヘリオトロンJプラズマにおけるイオンのエネルギースペクトルに関する研究
加 藤 道 明	光イオン化過程を取り入れた高強度レーザーとクラスターとの相互作用に関するシミュレーション研究

修 士 論 文

金 倉 淳 志	Improvement of Dye Sensitized Solar Cell with Tandem Structure (タンデム構造をもつ色素増感太陽電池の開発)
金 村 祥 平	Physicochemical Properties of Molten NaTFSI-CsTFSI System and an Application to Na/S Battery (NaTFSI-CsTFSI系溶融塩の物性とNa/S電池への応用)
鎌 田 享	Optimization of hole transport layer in polymer solar cells (有機薄膜太陽電池におけるホール輸送層の最適化の研究)
川 口 真 一	Development of a New Method of Subcriticality Measurement Based on the Concept of Imaginary Neutron Source (仮想中性子源の概念を用いた新しい未臨界度測定法の開発)
河 津 良 和	マイクロ波球状トーラスプラズマ形成過程の可視光像観測
北 川 寛	EMPy ₂ Cl-ZnCl ₂ 系中低温溶融塩の開発と高融点金属電析への応用
倉 田 康 司	プラズマ電流を運ぶ電子サイクロトロン駆動高速電子テイルのX線計測
上 月 庸 嗣	イオン温度勾配乱流に対する抵抗性テアリングモードの影響に関する研究
柴 田 敏 宏	金属イオン結合モチーフを用いたリボヌクレオペプチド高次構造の分子設計
下 川 俊 久	放射線誘起表面活性による伝熱促進に関する研究 - ガンマ線照射中の雰囲気の影響 -
鈴 木 博 晶	Ba-In系酸化物電解質を用いた一室型燃料電池の研究
高 橋 裕	ヘリオトロンJのイオンサイクロトロン周波数帯加熱における高速粒子挙動の実験的研究
竹 内 徹 朗	軟X線CTによるマイクロ波球状トーラスプラズマ形成過程の観測
龍 山 裕 一	最小構造からなるメタン水酸化酵素の設計と特性評価
坪 井 慎 一 郎	バイオミメティック法による徐放性アパタイトマイクロカプセルの開発
寺 島 純 平	水溶液法によるリチウム二次電池新規機能性電極材料の開発
中 嶋 祥 乃	ヘリオトロンJにおける軟X線波高分分析法を用いた放射スペクトルの研究
仲 野 瞬	リボヌクレオペプチドを用いたペプチド加水分解酵素の創製
西 哲 平	レーザーアブレーションブルーム分光による液中金属表面のその場元素分析
西 嶋 哲 平	リン酸化タウペプチドによるナノ構造体形成
西 村 信 吾	Properties of electric double layer capacitors using fluoro-hydrogenate ionic liquids as electrolytes (フルオロハイドロジェネートイオン液体を電解液として用いた電気二重層キャパシタの特性)
濱 上 史 頼	ヘリオトロンJにおける荷電交換再結合分光法を用いた不純物イオン温度・回転速度計測
福 村 集	Evaluation of dye-sensitized solar cells using the Laser-Beam-Induced Current (LBIC) method (LBIC計測法を用いた色素増感太陽電池の評価)
藤 田 彰	LiMn ₂ O ₄ 系リチウム二次電池正極材料の開発
梶 谷 将 吾	プラズマ流の効果を取り入れた球状トーラスの平衡に関する研究
松 岡 浩 然	ヘリオトロンJにおける不純物挙動に関する分光学的研究
松 本 翼	p型シリコン中に形成した配列マクロ孔内における貴な金属の電解析出
向 井 清 史	ヘリオトロンJ装置における電子密度分布計測を目的としたマイクロ波AM反射計の開発
村 井 謙 介	複数の方向性プローブによるヘリオトロンJ周辺プラズマ解析
村 中 陽 一	電気化学的手法によるZnO薄膜作製に関する研究
八 木 貴 宏	Development of Small Neutron Detector with Optical Fiber (光ファイバーを用いた小型中性子検出器の開発)
安 田 弘 之	ヘリオトロンJにおけるECHパワー吸収分布の共鳴位置依存性
山 田 裕 康	ヘリオトロンJプラズマにおける電子バーンシュタイン波加熱の数値解析

修 士 論 文

渡 邊 真 吾	水溶液法による異種金属添加酸化マンガンの合成と充放電特性
渡 會 篤	Studies on rechargeable lithium batteries using molten (Li, K, Cs) TFSI mixture as the electrolyte (混合溶融 (Li, K, Cs) TFSIを電解質に用いたリチウム二次電池に関する研究)
前 田 修 平	垂直大口径管内多次元気液二相流の流動特性に関する研究
石 堂 敦 基	円筒放電管型核融合中性子源による中性子ビームの発生
岩 間 万里明	低炭素オーステナイトステンレス鋼のSCC感受性に及ぼす水素の影響に関する研究
大 島 智	ディーゼルおよびPCCI燃焼における着火とNO _x 生成に与える燃料の影響
大 萩 佑 介	レーザ計測を用いたディーゼル噴霧内混合気形成過程の解析
梶 本 哲 也	高分子圧電フィルムによる構造物背面欠陥のモニタリング法の検討
鎌 原 本 也	引張変形に伴う多結晶体の表面粗面化に関する解析的検討
貴傳名 亮 甫	二段噴射を用いたディーゼル噴霧燃焼における熱発生とNO _x 生成の特性
小 松 陽 二	直接噴射式水素エンジンの性能および燃焼特性
椎 山 拓 己	三極管構造による熱陰極型高周波電子銃生成ビームの高輝度長パルス化
清 水 健 太	ビッカース硬さ試験に基づく電解銅箔の応力-ひずみ特性の検証
菅 沼 寛 之	ガス燃料噴流の火花点火燃焼特性に関する研究
高 橋 尚 也	ボロノイ多角形によりモデル化した二相微視組織における疲労き裂成長解析と寿命予測
中 嶋 一 博	繊維強化複合材料における超音波伝搬特性の有限要素シミュレーション
仲 田 圭 吾	磁場および応力によるFe-Ni合金の一軸異方性弾性係数の変化
中 西 潤二郎	予混合気の火花点火ノックおよび圧縮着火特性に関する研究
長谷川 隆 康	核熱利用システムとしての木質バイオマスからの水素製造プロセスの基礎研究
原 田 慎 治	PCCIディーゼル機関における燃料噴射条件の選択に関する研究
平 野 雅 人	スパッタ被覆ガラスの機械的特性に及ぼす被膜材種の影響
藤 田 誠 人	各種ガス噴流および液体噴霧の着火燃焼特性に関する研究
藤 本 武 士	慣性静電閉じ込め装置における核融合反応分布計測の高度化
南 達 矢	SiCにおける水素同位体の溶解および拡散挙動の研究
矢 野 弘 樹	イオン照射した鉄二元系モデル合金の照射硬化に及ぼすMnの影響
山 地 滋	圧電探触子の感度補正による接触音響非線形効果の定量評価
吉 中 央 任	天然ガスPCCI機関の出力範囲拡大および天然ガス機関の諸元選択に関する研究
米 田 圭	ボクセル近似による均質化法を用いた多孔質体の力学的特性の解析
浅 尾 祐 基	Fabrication of metallic microchannels by spacer method and inner microfluid characteristics (スペーサー法による金属マイクロ流路の作製および内部マイクロ流体挙動)
石 川 博 之	New Methods of Identifying Power System Characteristics Based on Data Measured On-line (オンライン計測データに基づいた電力システムの新しい解析手法)
板 津 正 明	Springback Characteristics of a Magnesium Alloy Sheet in Warm Draw Bending (温間引張曲げ成形におけるマグネシウム合金板のスプリングバック特性)
稲 荷 博 文	Gravitational Level Effects on Cu Electrodeposition (銅電析に及ぼす重力レベルの影響)
伊 吹 和 也	Heat Transfer Characteristics of a Planar Water Jet Impinging Obliquely on a Flat Surface (傾斜した加熱固体平板に衝突するカーテン状水膜噴流の熱伝達特性)
上 野 洋 平	高強度フェムト秒レーザーパルスによって誘起された配向分子のイオン化・解離と高次高調波発生
加 納 慶 達	アルコール還元法による炭素担持白金触媒作製における酸およびアルカリ添加の影響

修 士 論 文

木村克也	Stretch formability at room temperature in AZ31 Mg alloy sheets (AZ31マグネシウム合金板材の室温張出成形性)
國松俊佑	スラブ型 β -FeSi ₂ フォトニック結晶光導波路の作製と導波モード解析
小林庸浩	プラズマ対向材としての炭化珪素系セラミックスへのタンゲステン被覆に関する研究
佐久間剛	Interfacial Phenomena of Bubble Evolution in Water Electrolysis (水電解操作における気泡発生界面現象)
櫻田優貴	Development of Finite Element Simulation Model in Roll Forming of Seam-Welded Pipes (電縫管ロール成形の有限要素シミュレーションモデルの開発)
佐々木 怜	KU-FELにおける12 μ m帯での増幅特性
芝辻悠太	Transport Mechanism of a Solid Particle in Pulsatile Pipe Flows (管内脈動流による固体粒子の輸送機構)
正野由美	Basic Studies on the Design of Superconducting Fault Current Limiter in Power System (電力系統における超電導限流器設計に関する基礎的研究)
白坂翔平	燃料電池用触媒における粒子形状および担持状態の評価
上西隆文	Fe ₃ Si/Geエピタキシャル成長界面の熱的安定性：原子相互拡散の影響
竹下裕晃	CaO-P ₂ O ₅ -SiO ₂ 系の熱力学
中本圭昭	Mechanical properties of Cu and Co-Cu alloy processed by electrodeposition (電析法で作製されたCuおよびCo-Cu合金の機械特性)
林 竜也	Na ₂ O-Al ₂ O ₃ -SiO ₂ -FexO系の熱力学
古河直樹	固体鉄中への浸炭に及ぼす炭材結晶化度の影響
宮谷佳孝	フェムト秒レーザーによる硬質薄膜表面のナノ構造形成過程に関する研究

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 国際会議・国内会議 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

(平成19年4月～平成20年3月)

氏名(専攻名)：松本 英治 (エネルギー変換科学専攻)
会議名称：International Symposium on Symbiotic Nuclear Power Systems for 21st Century
会議開催期間：平成19年7月9～11日
開催場所：若狭湾エネルギー研究センター
主催：ISSNP組織委員会
共催：日本原子力学会ヒューマンマシンシステム研究会、シンビオ社会研究会 他

氏名(専攻名)：坂 志朗 (エネルギー社会・環境科学専攻)
会議名称：Bio Fuels World 2007 「バイオ燃料製造装置&材料展」
会議開催期間：平成19年7月11～13日
開催場所：パシフィコ横浜
主催：Bio Fuels World協議委員会

氏名(専攻名)：坂 志朗 (エネルギー社会・環境科学専攻)
会議名称：ものづくりフェア2007 「バイオ燃料シンポジウム」
会議開催期間：平成19年10月26日
開催場所：マリンメッセ福岡
主催：日刊工業新聞社

氏名(専攻名)：坂 志朗 (エネルギー社会・環境科学専攻)
会議名称：The International Congress on Bio-diesel: The Science and the Technologies
(バイオディーゼルセッション オーガナイザー)
会議開催期間：平成19年11月5～7日
開催場所：ウィーン (オーストリア)
主催：The American Oil Chemists' Society

氏名(専攻名)：坂 志朗 (エネルギー社会・環境科学専攻)
会議名称：第30回材料講習会「カーボンニュートラル材料最前線」
会議開催期間：平成19年11月13日
開催場所：大阪市立大学文化交流センター
主催：日本材料学会企画事業委員会

氏名(専攻名)：坂 志朗 (エネルギー社会・環境科学専攻)
会議名称：第7回バイオマス部会・研究会 合同交流会 -バイオマスのアジア展開-
会議開催期間：平成19年11月16日
開催場所：損保会館 (東京)
主催：(社)化学工学会エネルギー部会、(社)日本エネルギー学会バイオマス部会 他

国際会議・国内会議

氏名（専攻名）：坂 志朗（エネルギー社会・環境科学専攻）

会議名称：第3回バイオマス科学会議

会議開催期間：平成20年1月15～16日

開催場所：キャンパスプラザ京都

主催：日本エネルギー学会 バイオマス部会

氏名（専攻名）：岸本 泰明（エネルギー基礎科学専攻）

会議等名称：Physics and Modeling of Multi-scale International in Plasmas

会議開催期間：平成20年3月3～4日

開催場所：京大会館

共催：共催核融合科学研究所

氏名（専攻名）：岸本 泰明（エネルギー基礎科学専攻）

会議等名称：「原子・緩和過程が関与したプラズマの相乗的複雑性と構造形成」

会議開催期間：平成20年3月10～11日

開催場所：京都大学百周年時計台記念館

共催：共催核融合科学研究所

会議等名称：産学連携シンポジウム

会議開催期間：平成20年3月18日

開催場所：京都テルサ

主催：京都大学大学院エネルギー科学研究科・エネルギー理工学研究所・原子炉実験所・
工学研究科原子核工学専攻

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 栄 誉 ・ 表 彰 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

(平成19年4月～平成20年3月)

《賞の名称》

(授与学会・団体等：明らかな場合は省略)

受賞年月日

専攻名

受賞者名

受賞対象論文等

(共著、共同発表者等)

《米国光学会Fellow》

平成19年9月17日

エネルギー応用科学専攻

教授 宮崎健創

《日本塑性加工学会賞 優秀論文講演賞》

平成19年10月15日受賞

エネルギー応用科学専攻

助教 濱 孝之

「各種有限要素法解析プログラムによる曲げ成形解析」

<教 員>

《日本塑性加工学会賞優秀賞会田技術奨励賞》

平成19年5月25日受賞

エネルギー応用科学専攻

教授 馬 淵 守

「軽量金属材料の塑性変形挙動に関する研究」

《日本原子力学会再処理・リサイクル部会賞》

平成20年3月27日受賞

エネルギー基礎科学専攻

助教 後 藤 琢 也

「核燃料サイクル施設から発生する有用物質のリサイクル技術の開発」

《日本塑性加工学会賞論文賞》

平成19年5月25日受賞

エネルギー応用科学専攻

助教 濱 孝之

「2ロール矯正における曲げの塑性率と繰り返し回数が真直性に与える影響－棒線における矯正と残留応力の研究 第3報－」

(早稲田大学共同)

<学 生>

《マテリアルズ・テーラリング研究会

ポスター賞》

平成19年7月28日受賞

エネルギー基礎科学専攻

博士1 西村友作

「シリコン系太陽光発電システムのための材料プロセッシング」

《Verlag Stahleisen, Jernkontert, Best Paper Award》

平成19年6月12日受賞

エネルギー応用科学専攻

助教 長谷川 将 克

教授 岩 瀬 正 則

“Utilization of Waste Wood for Production of Iron, Carbon Monoxide and Hydrogen without Generating Carbon Dioxide”

《マテリアルズ・テーラリング研究会

ポスター賞》

平成19年7月28日受賞

エネルギー基礎科学専攻

修士2 西村 信 吾

「フルオロハイドロジェネート系イオン液体の電気二重層キャパシタ用電解液への応用」

 栄 誉 ・ 表 彰

 《3rd Korean-Japan Joint Summer School
(JSS-3) ポスター賞》

平成19年8月29日

エネルギー変換科学専攻

修士2 岩 間 万里明

 Effect of Dissolved Hydrogen on Stress
Corrosion Cracking Behavior of SS316L Steels
(H.S.Cho, H.Ohkubo and A. Kimura)

 《13rd International Conference on Fusion
Reactor Materials (ICFRM-13) ポスター賞》

平成19年12月14日

エネルギー変換科学専攻

修士2 岩 間 万里明

 Effect of Dissolved Hydrogen on Stress
Corrosion Cracking Behavior of SS316L Steels
(H.S.Cho, H.Ohkubo and A.Kimura)

《テクノ愛'07 大学の部奨励賞》

平成19年11月23日受賞

エネルギー基礎科学専攻

博士1 藪 塚 武 史

 「銀微小球被覆アパタイトマイクロカプセルの
作成」

《軽金属学会関西支部研究発表最優秀賞》

平成20年1月10日

エネルギー応用科学専攻

修士2 加 渡 幹 尚

 《第15回超音波による非破壊評価シンポジウム
新進賞》

(日本非破壊検査協会)

平成20年1月24日

エネルギー変換科学専攻

修士2 山 地 滋

 「圧縮探触子の感度補正による接触音響非線形
効果の定量評価」

 《日本AEM学会第16回MAGDAコンファランス優
秀講演論文賞》

平成19年11月23日

エネルギー変換科学専攻

修士1 松 尾 公 彦

 「フェーズドアレイ超音波探触子による探傷法
のシミュレーション」

《The APLS Young Scientist Prize》

(第6回アジア太平洋レーザーシンポジウム)

平成20年2月1日受賞

エネルギー応用科学専攻

博士1 吉 井 一 倫

《電気化学会 溶融塩化学奨励賞》

平成19年11月30日受賞

エネルギー基礎科学専攻

修士1 中 田 義 人

「イオン液体-水二相系の熱特性」

 《米国電気化学会 ECS 212th Meeting Best
Poster Award》

平成20年3月18日受賞

エネルギー応用科学専攻

修士2 稲 荷 博 文

《電気化学会 関西電気化学奨励賞》

平成19年12月8日受賞

エネルギー基礎科学専攻

博士1 西 村 友 作

 「疎水性室温溶融塩中におけるSi薄膜の電気化
学プロセッシング」

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 人 事 異 動 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

(平成19年 5 月～平成20年 4 月)

〈平成19年 5 月 1 日付け〉

エネルギー社会・環境科学専攻
客員教授 安 藤 晴 彦
(経済産業省資源エネルギー庁
新エネルギー対策課長)

〈平成19年 8 月 1 日付け〉

エネルギー応用科学専攻
教 授 平 藤 哲 司 (採用)

エネルギー基礎科学専攻
客員准教授 比 村 治 彦
(京都工芸繊維大学大学院
工芸科学研究科 准教授)

〈平成19年11月30日付け〉

エネルギー変換科学専攻
助教授 奇 成 燮 (辞職)

〈平成20年 1 月 1 日付け〉

エネルギー社会・環境科学専攻
客員教授 雷 明 (Lei Ming)
(北京大学光華管理学院 教授)

〈平成20年 3 月31日付け〉

エネルギー応用科学専攻
教 授 福 中 康 博 (定年)

〈平成20年 4 月 1 日付け〉

エネルギー基礎科学専攻
客員教授 百 田 邦 堯
(森田化学工業株式会社 常務取締役)

エネルギー応用科学専攻
客員教授 森 謙一郎
(豊橋技術科学大学工学部 教授)

エネルギー変換科学専攻
客員教授 Roland Borghi
(マルセイユ大学 名誉教授)

〈平成20年 4 月10日付け〉

エネルギー基礎科学専攻
准教授 伊 藤 澄 子 (辞職)

教 員 配 置 一 覧

エネルギー科学研究科教員配置一覧

平成20年4月1日現在

専攻名	講 座 名	研究指導分野名	担 当 教 員 名			備 考
			教 授	准教授	助 教	
エネルギー社会・環境科学	社会エネルギー科学	エネルギー社会工学	石原 慶一	奥村 英之	山末 英嗣	
		エネルギー経済	手塚 哲央	前田 章		
		エネルギーエコシステム学	坂 志朗	河本 晴雄	宮藤 久士	
		[国際エネルギー論]				
	エネルギー社会環境学	エネルギー情報学		下田 宏	石井 裕剛	
		エネルギー環境学	東野 達		山本 浩平	
	〈エネルギー社会論〉	エネルギー政策学		宇根崎博信	上原 章寛	原子炉実験所
		エネルギー社会教育	釜江 克宏	高橋 知之		〃
		エネルギーコミュニケーション論	杉万 俊夫			人間・環境学研究所
	(授業担当教員)		植田 和弘			地球環境学堂
エネルギー基礎科学	エネルギー反応学	エネルギー化学	萩原 理加	野平 俊之	後藤 琢也	
		量子エネルギープロセス			蜂谷 寛	
		機能固体化学	八尾 健	日比野光宏		
		[先進エネルギー生成学]	百田 邦堯			森田化学工業株式会社
	エネルギー物理学	プラズマ・核融合基礎学	岸本 泰明	李 継全		
		電磁エネルギー学	近藤 克己	中村 祐司	別生 榮	
		プラズマ物性物理学	前川 孝	田中 仁	打田 正樹	
	〈基礎プラズマ科学〉	核融合エネルギー制御	水内 亨		小林 進二	エネルギー理工学研究所
		高温プラズマ物性	佐野 史道	花谷 清 岡田 浩之	山本 聡	〃
	〈エネルギー物質科学〉	界面エネルギープロセス	尾形 幸生	作花 哲夫	深見 一弘	〃
		エネルギーナノ工学	吉川 暹 木下 正弘	佐川 尚	鈴木 義和	〃
		エネルギー生物機能化学	森井 孝		田井中一貴	〃
		生体エネルギー科学	牧野 圭祐	小瀧 努		〃
	〈核エネルギー学〉	中性子基礎科学	代谷 誠治	三澤 毅	卞 哲浩	原子炉実験所
		極限熱輸送	三島嘉一郎	齊藤 泰司	沈 秀中	〃
エネルギー変換システム学	エネルギー変換システム学	熱エネルギー変換	石山 拓二	川那辺 洋		
		変換システム	塩路 昌宏			
		[先進エネルギー変換]	Roland BORGHI			マルセイユ大学名誉教授
	エネルギー機能設計学	エネルギー材料設計	星出 敏彦	今谷 勝次		
		機能システム設計	松本 英治	琵琶 志朗		
	〈エネルギー機能変換〉	高度エネルギー変換	小西 哲之	山本 靖	竹内 右人	エネルギー理工学研究所
高品位エネルギー変換		長崎 百伸	増田 開		〃	
エネルギー機能変換材料		木村 晃彦	森下 和功	笠田 竜太	〃	
エネルギー応用科学	応用熱科学	エネルギー応用基礎学	野澤 博	前田 佳均		
		プロセスエネルギー学		白井 康之		
		[先端エネルギー応用学]	森 謙一郎			豊橋技術科学大学工学部教授
	エネルギー応用プロセス学	高温プロセス	平藤 哲司		植田 幸富	
		プロセス熱化学	岩瀬 正則	藤原 弘康	長谷川将克	
	資源エネルギー学	資源エネルギーシステム学	馬淵 守		陳 友晴	
		資源エネルギープロセス学	宅田 裕彦	藤本 仁	濱 孝之	
		宇宙資源エネルギー学		楠田 啓	日下 英史	
	〈高品位エネルギー応用〉	機能エネルギー変換	大垣 英明		紀井 俊輝	エネルギー理工学研究所
		エネルギー材料物理	香山 晃	檜木 達也	神保 光一 岸本 弘立	〃
光子エネルギー学		宮崎 健創	中嶋 隆	畑 幸一 宮地 悟代	〃	

※ 〈 〉 は協力講座、[] は客員講座

日 誌 (平成19年度)

平成19年	4月5日(木)	専攻長会議
	4月6日(金)	大学院入学式
	4月12日(木)	教授会
	5月2日(水)	専攻長会議
	5月10日(木)	教授会
	6月7日(木)	専攻長会議
	6月14日(木)	教授会
	7月5日(木)	専攻長会議
	7月10日(火)	修士課程・博士後期課程入学願書受付(～11日迄)
	7月12日(木)	研究科会議・教授会
	7月23日(月)	外部評価委員会
	8月7日(月)	修士課程入学者選抜試験(エネルギー変換科学専攻、エネルギー応用科学専攻第1回)(～8日迄)
	8月9日(木)	平成19年度10月期・平成20年度4月期博士後期課程入学者選抜試験(エネルギー変換科学専攻、エネルギー応用科学専攻)
	8月17日(金)	臨時専攻長会議 大学院入試合格発表(エネルギー変換科学専攻)
	8月27日(月)	修士課程入学者選抜試験(エネルギー社会・環境科学専攻、エネルギー基礎科学専攻第1回)(～28日迄)
	8月29日(水)	平成19年度10月期・平成20年度4月期博士後期課程入学者選抜試験(エネルギー社会・環境科学専攻、エネルギー基礎科学専攻)
	9月5日(水)	専攻長会議
	9月6日(木)	大学院入試合格発表(エネルギー社会・環境科学専攻、エネルギー基礎科学専攻、エネルギー応用科学専攻)
	9月12日(水)	研究科会議・教授会
	9月20日(木)	修士課程入学願書受付(エネルギー基礎科学専攻第2回、エネルギー応用科学専攻第2回)
	9月27日(木)	修士課程入学者選抜試験(エネルギー基礎科学専攻第2回、エネルギー応用科学専攻)
	10月4日(木)	専攻長会議 大学院入試合格発表(エネルギー基礎科学専攻第2回、エネルギー応用科学専攻第2回)
	10月5日(金)	安全衛生講習会 臨時教授会
	10月11日(木)	教授会
	11月1日(木)	専攻長会議

日 誌

- 11月8日(木) 研究科会議・教授会
- 11月17日(土) 第12回公開講座『科学技術と我々の社会』
- 12月6日(木) 専攻長会議
- 12月13日(木) 研究科会議・教授会
エネルギー科学教育シンポジウム
- 平成20年 1月7日(月) 専攻長会議
- 1月10日(木) 研究科会議・教授会
- 1月21日(月) 臨時専攻長会議
- 1月28日(月) 臨時教授会
- 1月28日(月) 修士課程入学者選抜試験(エネルギー社会・環境科学専攻第2次)、
修士課程外国人留学生・博士後期課程第2次入学願書受付
- 2月6日(水) 専攻長会議
- 2月13日(水) 研究科会議・教授会
- 2月14日(木) 修士課程入学者選抜試験(エネルギー社会・環境科学専攻第2次)、
修士課程外国人留学生・博士後期課程第2次入学者選抜試験(～15日迄)
- 3月6日(木) 専攻長会議
大学院入試合格発表；修士課程外国人留学生、博士後期課程第2次、
修士課程(エネルギー社会・環境科学専攻第2次)
- 3月13日(木) 研究科会議・教授会
- 3月24日(月) 修士課程修了式
- 3月25日(火) 臨時専攻長会議

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ ハラスメント相談窓口 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

エネルギー科学研究科では、セクシュアル・ハラスメントをはじめとする人権侵害に係る諸問題に対処するため「ハラスメント相談窓口」を設け、下記の者が相談員として相談に応じています。

相談は、電話でも文書でもできますが、面談を要する場合は、あらかじめ電話等で予約してください。相談窓口では、相談者（被害者）のプライバシーを保護し、またその意向をできる限り尊重して問題に対処いたしますので、お気軽にご相談ください。

京都大学大学院エネルギー科学研究科長
八 尾 健

〈ハラスメント窓口相談員〉

エネルギー変換科学専攻	教 授	松 本 英 治 (075-753-5247)
エネルギー基礎科学専攻	准 教 授	日比野 光 宏 (075-753-4734)
総務・教務掛	専門職員	山 田 美代子 (075-753-4871)
エネルギー基礎科学専攻	再雇用職員	江 間 恵 子 (0774-38-4420)

エネルギー科学研究科広報委員会

委員長 馬淵 守 (教授)
委員 近藤 克己 (教授) 星出 敏彦 (教授) 野澤 博 (教授)
下田 宏 (准教授) 川那辺 洋 (准教授) 石井 裕剛 (助教)
事務担当 エネルギー科学研究科 総務・教務掛
TEL 075-753-4871